

オイスカ

in 四国
www.oisca-shikoku.org/

2012.Oct.
vol.10



大 好 日 本 の 食 卓

No.2:オクラ



ルイサさん(24)
東ティモール出身

東ティモール地域開発研修センターで研修後、スタッフになる。生活改善コースで保健衛生、栄養、有機農業と女性の自立を目指すリーダーの研修をしている。帰国後は、後輩の指導にあたる予定。

上新粉を使ったオクラの天ぷら

日本の料理の中で好きなのは、オクラの天ぷらです。

実は天ぷらを食べるのは日本に来てから初めてではありません。

オイスカ東ティモール研修センターで研修を受けていた時、時々日本人の駐在員が研修生たちに天ぷらを振舞ってくれました。オクラやエンサイ(空芯菜)、ニガウリなど東ティモールにある野菜の天ぷらです。

日本に来て天ぷらを食べた時、少し味が違うのに気がつきました。

東ティモールでは薄力粉が少なく高価なため、天ぷらを作るときにはキャッサバからとれる粉を使っていました。それに塩を多く入れて、東ティモール人好みの強い味にしていたからです。四国センターの天ぷらの作り方は薄力粉の変わりに上新粉(米粉)を使います。上新粉を使うと時間が経っても衣がパリパリし

ているのでおいしいですし、カロリーが低くなるので体にも良い事を教わりました。

四国センターの調理実習では料理をおいしく作るだけでなく、体のことを考えた栄養バランスや、料理をきれいに見せるための野菜の切り方や盛り付け方などを勉強します。でもなにより、朝昼晩と3食をみんな揃って「いただきます」をして笑顔で食べられることに幸せを感じます。



苦手だったオクラが天ぷらにしたら大好物に变身しました



オイスカの会員・支援者になって国際協力活動に参加しませんか?

オイスカが進める人材育成、海外開発協力、「子供の森」計画および啓発普及活動は、長期的な取り組みが必要です。継続的なご支援をお願いいたします。

今すぐできる支援の方法は5つ 無理なく続けられる方法をお選びください

■支援内容 支援に関する詳細は <http://www.oisca.org/support/> または下記問い合わせ先にご連絡ください

1 毎月の継続寄附	毎月500円でオイスカ活動をトータルにサポート。8月に年次報告書が届きます。 ●ワンコインサポーター……500円×12カ月 ※月々の自動引き落とし 毎月2,000円からのオイスカ活動トータルサポート。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●マンスリーサポーター……2,000円～×12カ月 ※2,000円以上、任意(1,000円単位)の金額で月々の自動引き落とし
2 自由な寄附	各種活動の推進のための寄附です。時期、金額(1,000円以上)、回数は自由で、支援する事業をお選びいただけます。 ●海外開発協力事業 ●「子供の森」計画事業 ●人材育成事業 ●啓発普及事業(国内の森づくりなど啓発普及全般) ●啓発普及事業(海岸林再生プロジェクト) ●トータルサポート ……1,000円～(いつでも何度でも) ※1,000円以上のお申込みで、金額は任意となります。
3 「子供の森」計画支援	年間1口5,000円で「子供の森」計画を支援してくださる方を募集。支援証、活動を伝えるニュースと現地の子どもたちからのグリーティングカードが届きます。 ●「子供の森」計画支援……5,000円/年
4 賛助会員	オイスカの活動に賛同し、ともに歩んでくださる方を募集。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●維持会員……20,000円/年 ●特別会員……50,000円/年
5 集めて送る	自宅にいなから参加できるボランティアです。ペルマークは1点=1円で「子供の森」計画に、書き損じはがきは各種活動推進のために使われます。 ●ペルマーク ●書き損じはがき

問い合わせ先

◆四国支部	〒760-0017 香川県高松市番町2-7-15 第二讃機ビル2F	TEL:087-821-1503
◇高松推進協議会	〒760-0017 香川県高松市番町2-7-15 第二讃機ビル2F	TEL:087-821-1503
◇坂出推進協議会	〒762-0011 香川県坂出市江尻町1721-10[(株)石井内]	TEL:0877-45-0141
◇三豊推進協議会	〒769-1502 香川県三豊市豊中町笠田笠岡3915-3[(株)イナダ内]	TEL:0875-56-6001
◇香川東推進協議会	〒769-2304 香川県さぬき市昭和5806[高松東ファクトリーパーク さぬき市管理組合内]	TEL:0879-52-5070
◇中讃推進協議会	〒763-0034 香川県丸亀市大手町3-2-1[四国電力(株)丸亀営業所内]	TEL:0877-22-5973
◇綾川推進協議会	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1[オイスカ四国研修センター内]	TEL:087-876-3333
◇徳島県推進協議会	〒770-8555 徳島県徳島市寺島本町東2-29[四国電力(株)徳島支店総務課内]	TEL:090-3181-0158
◇高知県推進協議会	〒780-0870 高知県高知市本町1-6-24[高知商工会議所総務部内]	TEL:088-875-1177
◆四国研修センター	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1	TEL:087-876-3333

【Web】<http://www.oisca-shikoku.org/> 【E-mail】:oisca@oisca.org

未来をつなぐ「子供の森」計画 子ども親善大使が四国を訪問



世界のオイスカの動き アラブ首長国連邦・アメリカ合衆国・アルゼンチン・台湾

研修生の紹介

推進協議会の活動報告

- ◎香川東 ◎高松 ◎綾川 ◎三豊
- ◎坂出 ◎徳島県 ◎中讃 ◎高知県

大好き日本の食卓

あなたも参加しませんか?オイスカサポートの輪





未来をつなぐ 「子供の森」計画

子ども親善大使が四国を訪問

日本の子ども達に各国の環境への取り組みを紹介

「子供の森」計画(CFP: Children's Forest Program)は、子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えて育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切に育む気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうというプログラムです。1991年にはじまったこの活動は、2012年3月末現在、29の国・地域の4,534の学校が参加するまでにその輪が広がっています。

「子供の森」計画を開始してから約20年以上が経ち、木を植えた面積や本数、生長だけに活動の価値を置くのではなく、子どもたちが自分たちの活動の目的を理解し、主体的な行動に結び付けられるよう環境教育にも力を入れています。授業形式の環境教育だけではなく、草木染、ハーブを使った天然洗剤の作成、ごみの分別から堆肥作り、ネイチャーゲーム

ました。文化交流の後は、親善大使達が学校で行っている環境活動を紹介しました。海外で子ども達が自分達の環境、未来を守るため、自主的な活動をしていることを日本の子ども達も学ぶことができ、有意義な時間を過ごしました。ちょうど、この時期は5月22日の「生物多様性の日」を記念した国連の進める「グリーンウェーブ活動」の時期と重なったこともあり、グリーンウェーブ活動の一環として、香川県東部林業事務所の協力を得て、高松市立東植田小学校の児童とともに藤尾山(高松市西植田町)に柏の木を植えました。またタラヨウの葉っぱを使用した葉書作りをし、実際に東京本部へ郵送しました。葉っぱに字を書くのは初めての体験。本当に届くかわくわくしながらの投函になりました。親善大使と共に訪日した学校の先生も香川の環境に対する取り組みに大変関心をもっていました。特にため池のシステムが参考になり、自国の農業発展につなげていきたいと言っていました。

そして、最後の夜はホームステイをそれぞれのホストファミリーと一緒に過ごしました。瀬口さん宅では、ご友人達が集まり、皆でインドネシア料理を作りパーティーとなりました。この交流を通じて、



書道体験。友好の願いを込めて「友」を書きましたワンさん(タイ)



訪問した学校では自国の環境活動を紹介しました

など実際に自然に触れ、観察をすることで、自然を守る必要性や、その他環境に関する様々な気づきを得ています。

昨年の20周年を節目に海外の子どもたちを「子供の森」計画親善大使として、10日間日本に招けました。フィジー、インド、インドネシア、フィリピン、タイの各国からそれぞれ子ども達の代表2名、学校の教員1名、コーディネーター1名が来日しました。東京では「世界子ども会議」を開催し、情報交換ワークショップを行いました。その後、宮城県でオイスカが進める海岸林再生プロジェクトの現場を訪れました。子ども達は「自然の力は人間の想像を超えている」と実感しました。「住民の方々からお話を聞けて、海外林がどれだけ地域の人々の暮らしを守っていたかが分かりました」「私たち人間が今度は木を守る手伝いをする番

インドネシアについて関心が高まり、子ども達が一所懸命に環境への取り組みをしていることに感激し、「子供の森」計画の支援者になって頂きました。

わずかな訪問日程でしたが、親善大使は四国の多くの人々と接し、それぞれの方の心に思い出を残していきました。



インドネシアの伝統音楽を紹介してくれたザルファさんとジャバルくん(インドネシア)



オイスカ四国支部石井淑雄会長より記念品の腕時計が贈呈されました



グリーンウェーブ活動も兼ねて日本の子ども達と一緒に記念植樹をしました



騎馬戦の騎手に挑戦。ベットさん(タイ)

「子供の森」計画に参加・協力するには

- 1 「子供の森」計画の支援者になる**
年間一口5,000円から何口でもお受けいたします。支援金は、世界中の学校での森づくり(苗木代・肥料代・植林用機材費・植林後管理費)、環境教育(文房具代・環境教育機材費・学校施設実費)などに活用されます。
支援者の皆様には... 支援証をはじめ、支援先の学校の活動を紹介するレポートや、世界各地の現場状況を伝える「ラブグリーンニュース」や、クリスマス～年始に現地の子どもたちからグリーティングカードがお手元に届けられます。
- 2 グローバル「子供の森」基金に出資する**
本基金は安定した活動の継続のために設立されたもので、その運用益を「子供の森」計画推進に使わせていただきます。基金出資者には出資者名を冠した〇〇〇〇「子供の森」基金として永久に登録されます。(1件 100万円以上)
- 3 ベルマーク、書き損じはがきを集めて送る**
ベルマークは1点=1円として「子供の森」計画への寄附として、書き損じはがきは「子供の森」計画を始めとしたオイスカ活動の郵送費等として活用させていただきます。

お問い合わせ 四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1
TEL:087-876-3333 oiscastc@oisca.org



Alvianah Gusigi
ガディ

- 出身/マレーシア
- 宗教/キリスト教
- コース/家政(2年目)



Solen Janice Cosme
ジャニス

- 出身/フィリピン
- 宗教/キリスト教
- コース/家政(1年目)



Rifa'an
リファ

- 出身/インドネシア
- 宗教/イスラム教
- コース/農業指導(1年目)



Henrika Nandre
ヘンス

- 出身/PNG
- 宗教/キリスト教
- コース/国際ボランティア(1年目)



Jesmin Nahar
シャボニ

- 出身/バングラデシュ
- 宗教/イスラム教
- コース/生活改善



Yusi Setyasih
ユシ

- 出身/インドネシア
- 宗教/イスラム教
- コース/生活改善



Hosni Yati B. Ringgan
ホスニ

- 出身/マレーシア
- 宗教/キリスト教
- コース/生活改善



Luisa M. Soares
ルイサ

- 出身/東ティモール
- 宗教/キリスト教
- コース/生活改善



Edy Mulyadi
エディ

- 出身/インドネシア
- 宗教/イスラム教
- コース/委託(東山産業)



Norbert Duanis
ノル

- 出身/マレーシア
- 宗教/キリスト教
- コース/委託(竹内農場)



Hengki
ヘンキ

- 出身/インドネシア
- 宗教/イスラム教
- コース/委託(宮下農場)



Hildie Bin Milan
ヒルディ

- 出身/マレーシア
- 宗教/キリスト教
- コース/委託(竹内農場)

研修コース紹介

家政コース

調理、栄養、食品加工を中心に学ぶコースです。和食中心としたメニューを学び、健康によい自国にあった料理法を考えます。

農業指導コース

現地のオイスカスタッフが対象で、農業指導技術や組織の運営方法など多岐にわたる内容を学びます。

国際ボランティアコース

現地のオイスカスタッフが対象で、実際に組織の運営に携わったりしながら地域開発を学ぶコースです。

生活改善コース

農村女性の生活改善と村づくり研修コース/外務省NGO補助事業

食品加工、栄養、有機農業、環境、保健衛生を学び、地域の発展を担うリーダーシップを養います。

技能実習コース

農業分野、工業分野の組織に委託し技術や知識を習得するコースです。

日本人ボランティアも活躍中です！

ボランティア体験談

昨年ボランティアをさせて頂き、約1年半が経ちました。農業やイベントの企画運営、研修生の日本語学習のサポート、環境教育を通じた子供達との交流など、実に様々な経験をさせて頂きました。まさに「何でも経験できる」のがボランティアの魅力だと思います。また、入国時は異文化・異言語に戸惑っていた研修生達が、壁を乗り越え成長していく姿にはいつも心を動かされます。ボランティアと一緒に世界を広げてみませんか？



坪谷純希

新潟県出身。大学で国際文化を専攻後、農業や国際協力を学びたいとオイスカのボランティアになりました。研修センターで研修生と一緒に共同生活をしています。

世界のオイスカの動き

続々と世界に広がる「子供の森」計画(CFP)

米国

強い絆を象徴する桜を植樹！

昨年オイスカ・アメリカ総局(以下総局)が誕生した米国・ニュージャージー州ラリタンにて、4月10日、同国での「子供の森」計画第1号となる植樹活動が行われました。レオナード・ランス下院議員やジョアン・リブタック市長、州議会議員など米国の要人約20名、日本からは、杉浦正行愛知県支部会長を団長とした代表団20名が参加し、子どもたち、地域住民、総局メンバーなど合わせて約100名がジョン・F・ケネディ(JFK)小学校に集まり記念式典と植樹を行いました。2012年は日本が同国にサクラの苗木を最初に寄贈してからちょうど100年目に当たることから、今回の「子供の森」計画でもその節目を記念し、両国の温かく強い絆の象徴としてサクラの苗木が植えられました。

また、4月17日から米国財務省より、同総局への寄附に対して税制上の優遇を受けられることになり今後のオイスカ活動のさらなる発展へつなげていきたいと期待を膨らませています。



式典後、JFK小学校の子どもたちと揃って記念撮影



この日植えられたのは100年前に贈られたサクラの4代目

アラブ首長国連邦(UAE)

アラビア半島初!オイスカ総局も発会

今年1月に総局が発会したアラブ首長国連邦(UAE)で「子供の森」計画がスタートし、6月24日にドバイで行われた記念式典と植栽にオイスカの永石安明事務局長が出席しました。記念式典では、「子供の森」計画に参加する学校の生徒たちが環境保全に関するスピーチやプレゼンテーションを披露。その後の植栽では、インディア・センターという建物の前の花壇に鮮やかなオレンジ色の花をつける木を植え、環境を守っていくための誓いを出席者全員で宣誓しました。夜には同総局の総会が開催され、ドバイを含む各アラブ首長国から50名を超える会員が参加しました。その中でニフシャル同総局事務局長は、「今後は子どもたちによるラブ・グリーンクラブを結成し、環境保全に対する意識向上に力を入れていきたい」と語りました。国土の80%は砂漠で年間を通じて流れる河川は存在しないというアラブ首長国連邦で、まずは子どもたちの心に木を植える活動からスタートです。



強い日差しに負けず大きく育ちますように(中央が永石事務局長)



総会では、ニフシャル事務局長が環境保全の重要性を説明し、今後のオイスカUAEのCFPの方向性が示された

台湾

環境教育法が後押し！

3月23日、台湾の台北市立福安国民中学校において、台湾で初めての「子供の森」計画が実施されました。その第1号となった福安国民中学校は生徒数152名と小規模ですが、約2.5haの広大な敷地を有し、国際数学能力検定では団体で優秀賞を獲得するなど台湾では知られている学校です。また、昨年6月に環境教育法が施行され、高級中学(日本の高等学校に相当)以下の学校で毎年4時間以上の環境教育を教職員および学生に行うと定められたことから、「子供の森」計画はまさに「保護環境 珍愛地球(環境を保護し地球を大切に)」の行動に合致すると、学校をあげて取り組むことになりました。セレモニーには全校生徒と教職員、中華民国総会役員など230名が集合し、参加者にはオイスカの指導の下CFP活動を行うことの意義が説明されました。校庭では生徒らの手により台湾光蠟樹(シマトネリコ)など約50本が植えられたほか、祝いの獅子舞や太鼓も披露されました。



福安国民中学校の校庭で、記念のボードが披露されました



台湾で初のCFP生徒たちが力を合わせて植林

アルゼンチン

日系人社会のサポートで盛大に開催！

6月25日、南米のアルゼンチン(亜国)で南米で4番目となる「子供の森」計画がスタートしました。中心となるのはアルゼンチン拓殖協同組合(以下、亜拓)で、同国への移住を希望する日本人の便宜を図るため、1953年に設立された同国政府公認の日系組合です。同国北部ミオネス州には、約120haが「亜拓の森」として保全されています。2009年、オイスカ・インターナショナルの中野良子総裁が同地と「亜拓の森」を訪問し記念植樹を行ったことがきっかけとなり、今回の「子供の森」計画の実施となりました。当日は、近隣地域から集まった11校約50名の子どもたちがラバチョなどの郷土樹種を植樹。地元行政からも多くの協力を得ることができ、州政府の外務副大臣やガルアペー市長も出席しました。また、隣国パラグアイのイグアス日本人会をはじめ、ブラジルで開催されたりオ+20の出席を終えた中野総裁や「名取市海岸林再生の会」鈴木英二会長らもお祝いに駆け付けました。



「亜拓の森」の一角につくられたCFPのモニュメントの前で



CFPの植林に参加するアルゼンチンの子どもたち

香川 中 讃

会長◆中野 百合子

研修生の夢に感動

当協議会は、オイスカ四国支部の8協議会の中で一番新しい組織です。5月、11回目の定時総会を開催しました。総会の議事終了後は、二度目の来日となるインドネシア研修生のリファさんが体験発表をしました。母国のカランニアル研修センターで農業指導を行いながら植林プログラムのコーディネーターとしても活躍しています。今回の来日では、自身の指導力や組織の運営能力を高め、帰国後は母国でさらに活躍したいという夢を持って力強く発表しました。懇親会では、総会前に研修生が丸亀城内の工房で作った各自のオリジナルの「丸亀うちわ」を披露し、うちわを作った感想を発表しました。和やかなうちに、会員や研修生との親睦が深まり、研修生の存在感を十分に発揮した総会になりました。



ベテラン指導者から、うちわ竹骨に切り込みを入れる作業から教わります



総会后、研修センターで生産した野菜・卵、加工品などのチャリティバザーも開きました

香川 坂 出

会長◆宮崎 博文

子ども親善大使と坂出市民をつなぐ

5月15日、インドネシアとタイの「子供の森」計画子ども親善大使を坂出に招きました。坂出市立府中小学校を訪問。運動会前の競技練習や鼓笛隊の演奏風景を見学したり、騎馬戦などの競技にも参加したりと、多くの言葉が通じなくても、身振り手振りでいつの間にか打ち解けていました。その後、綾宏坂出市長を表敬訪問しました。市長から坂出市の産業や環境への取り組みについて説明があると、親善大使から多くの質問が出て活発な意見交換の機会になりました。最後には、市長より激励の言葉と記念品を頂きました。四国支部会長 石井淑雄様宅でホームステイをするなど、多くの経験ができたことと思います。8月19日には「さかいで楽市楽座」(主催:坂出商工会議所青年部)でオイスカ製品の販売・PRに協力しました。



子どもの森計画について説明するコーディネーターのアデさん



新製品、トマトビューレ、トマトジャムが勧めです

香川 綾 川

会長◆大方 義裕

エスニック料理教室で国際交流!

オイスカの活動や海外事情などを知るために第2回目の勉強会を行いました。マレーシア研修生のガディさんが講師となり、マレーシア料理に挑戦しました。ガディさんのメニューの説明の後、3つのグループに分かれて、主菜、副菜、デザートを作ります。調理するうち、だんだん、参加者の額にも汗がにじんできました。料理の段取りが整った後、研修センターの日課である国旗降納を見学しました。集団生活や規律訓練の一環として引き継がれているもので、研修生の母国それぞれへの敬意を表しています。締めくくりは、マレーシア料理を囲みながらの懇親会です。料理のお味も最高!研修生の歌やダンスなども披露されました。会員やそのご友人、研修生との交流は、楽しみながらオイスカの輪が広がりました。



勉強会の始まりはオイスカテーマソング「いのち輝け」の斉唱が恒例です



ビスケットマムル(豆のお菓子)を説明するガディ(一番左)と一生懸命に作る参加者

香川 香川東

会長◆富田 義雄

新生ミャンマー訪問

7月、オイスカ会員の株式会社クロダ 黒田会長とミャンマーを訪問しました。当協議会とミャンマーのつながりは古く、その足跡をたどること、ニュースで話題になっている新生ミャンマーを体感することが訪問の目的です。ヤンゴンより空路でバガンに入りさらに自動車で2時間、研修センターに到着します。イラワジ川に大橋が建設され、以前より随分と便利になりました。当協議会が橋渡しをして、長尾ライオンズクラブが寄贈した保育所を訪問しました。到着すると可愛い子ども達から熱烈な歓迎を受けました。保育所がきちんと管理され有効利用されていることを実感しました。研修センター、周辺農村の地場産業やヤンゴンの工業団地を見学し、ミャンマーの今後の成長がさらに楽しみになりました。



遠くの保育所に通わなくても済むようになったと父兄に好評の保育所



子ども達の可愛い歌と踊りで歓迎してくれました

高知 高知県

会長◆西山 昌男

つみ木遊びを通して森林への理解を!

子ども達の夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への理解を深めることを目的に四国森林管理局との共催で夏休み親子ふれあい木工教室を開催しました。木工の作品作りの後、四国研修センターによる「森のつみ木」広場を行いました。これは子ども達が間伐材からできたつみ木で遊びながら森の理解を深めるプログラムです。参加した子ども達は、誰が一番高く積み上げられるかを競い合ったり、親や友だちと協力しながら作品を作ったりと、一心不乱に遊んでいました。その後、「つみ木はどこからきたの?」という紙芝居を披露しました。日本の森は間伐という木の間引きが必要なことなどを分かりやすく説明しました。親子が真剣に鑑賞して大変好評で、多くを学んだ一日の締めくくりとなりました。



3種類のつみ木から様々な作品が出来上がります



紙芝居にいつか引き込まれてしまう子ども達

徳島 徳島県

会長◆米田 豊彦

四国のつどいin徳島を開催

6月14日、当協議会第2回総会および第7回四国のつどいin徳島を阿波観光ホテルで開催しました。四国のつどいin徳島では会員等46名が参加。ミャンマー研修生のテンライさんが帰国後の計画を発表しました。さらに、研修生による踊り等のアトラクションを披露し参加者の方との交流を深めました。締めは恒例の参加者全員による阿波踊りとなりました。8月13日には、会員企業である四国電力の協力のもと、研修センターの新研修生を阿波踊りに招待しました。当日は、研修生およびスタッフ8名が参加。当協議会からは役員、女性部員等9名が軽食の準備などの支援をしました。まずは阿波踊りのレクチャーです。慣れてくるとリズム感良く、長丁場の両国本町演舞場も元気に踊りぬき、観衆の喝采を浴びました。



研修生の踊りも披露。締めはやっぱり、阿波踊り!



「オイスカの阿波踊り〜」掛け声をかけながら進みます

香川 三 豊

会長◆稲田 覚

ふるさとづくり

オイスカの理念でもある“ふるさとづくり”への取り組みとして、観音寺市立一ノ谷小学校では6年生との卒業記念植林を地域の保全林で行い、また同市立豊田小学校では9年間にわたり研修生との交流や四国研修センターへの遠足訪問・ペットボトルのキャップ収集などオイスカを授業の中で学んでもらっています。そして、フィリピンネグロス島でのマングローブ植林の写真パネル展を年間通じて、三豊・観音寺地区の小学校で開催しています。植林や交流の経験により喜びや感動を与えられる人に成長してほしいと思います。今年のフィリピン植林は、12月5日～9日となりましたので、是非ご参加ください。



総会時には、豊田小学校の生徒さん達が学校で取り組むオイスカ活動を発表しました



マングローブの苗木を植える様子を写真展で紹介

香川 高 松

会長◆加藤 英輔

研修生を四国村に招待

9月1日、研修生に日本文化への理解を深めてもらうことを目的に、四国民家博物館(四国村)に招待しました。四国各地から古い民家を移築復元した野外博物館では、地方色豊かな建物が配置されており、当時の生活が分かるたくさんの民具も展示されていました。研修生は現代の日本の様子しか知らなかったため、日本の生活様式や建物の移り変わりを学んだり、研修生の国と似ている農具を発見したりと、とても貴重な体験だったようです。一番喜んだのは「かずら橋」でした。かずらでできた原始的なつり橋を渡るのは研修生も初めてで、橋が落ちたりしないか緊張しながら一步一步、確かめながら進みました。その後、中央公園で昼食、高松港を見学し、高松市内名所を巡った楽しい一日となりました。



橋の隙間から見える川にドキドキです



木造建築は研修生の国でも珍しいです